

平成28年12月期

決算説明資料



株式会社ユニカフェ

(東証一部：2597)

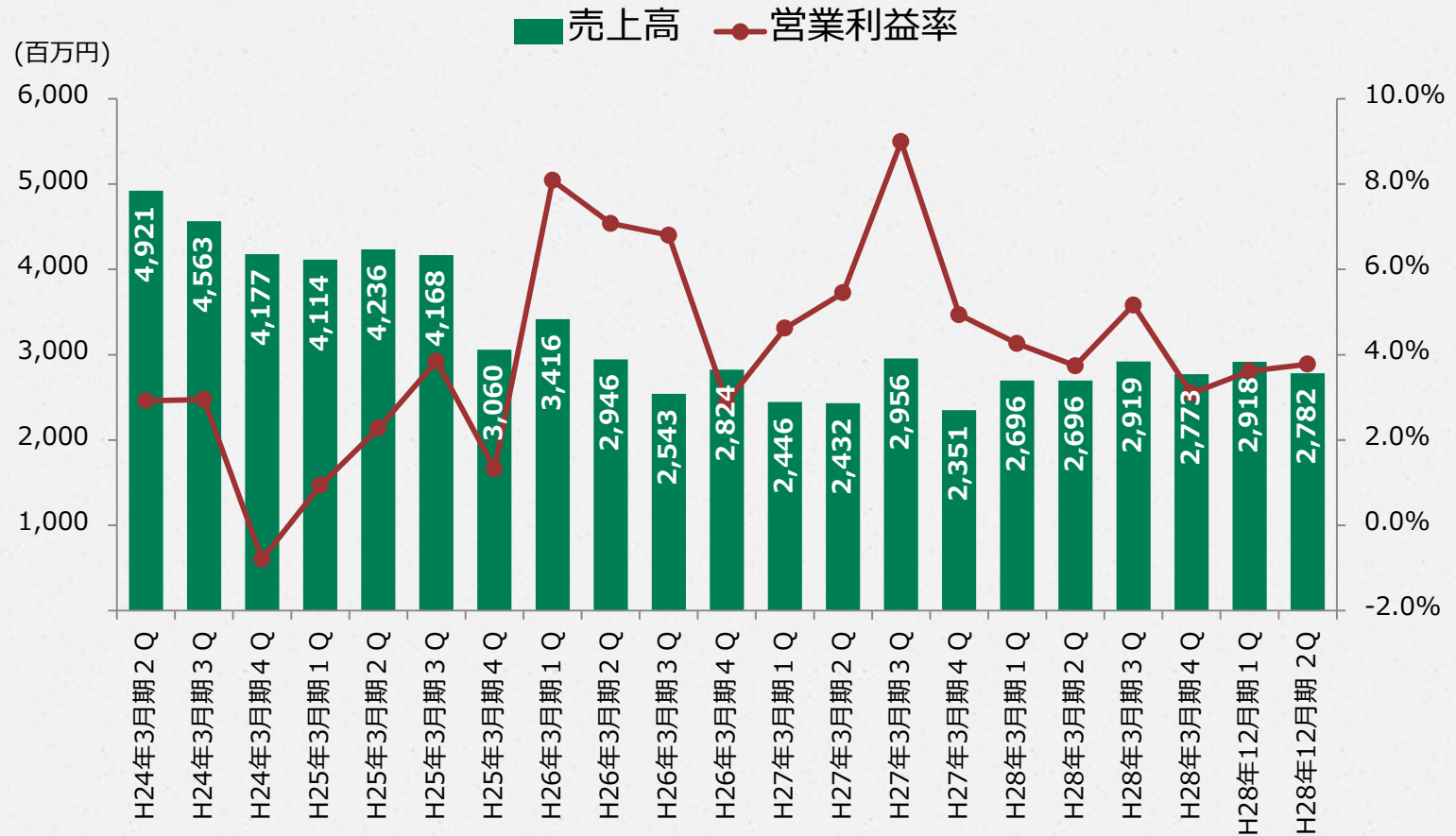
自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日

2Q サマリー情報

業績概況	◆ 売上高 5,701百万円 ◆ 営業利益 210百万円
セグメント別 売上高内訳	◆ 工業用コーヒー 2,938百万円 ◆ 業務用コーヒー 2,032百万円 ◆ 家庭用コーヒー 730百万円
収益性	◆ 営業利益 【悪化要因】 ・ 原料コスト上昇に見合った販売価格への転嫁遅れ ・ 販売費及び一般管理費が増加 【プラス要因】 ・ 販売数量の増加
トピックス	◆ 会計期変更に伴う9ヶ月変則会計期 ◆ 通期業績予想の修正

業績の推移

売上高および営業利益率の推移



決算概況

売上高5,701百万円、営業利益210百万円

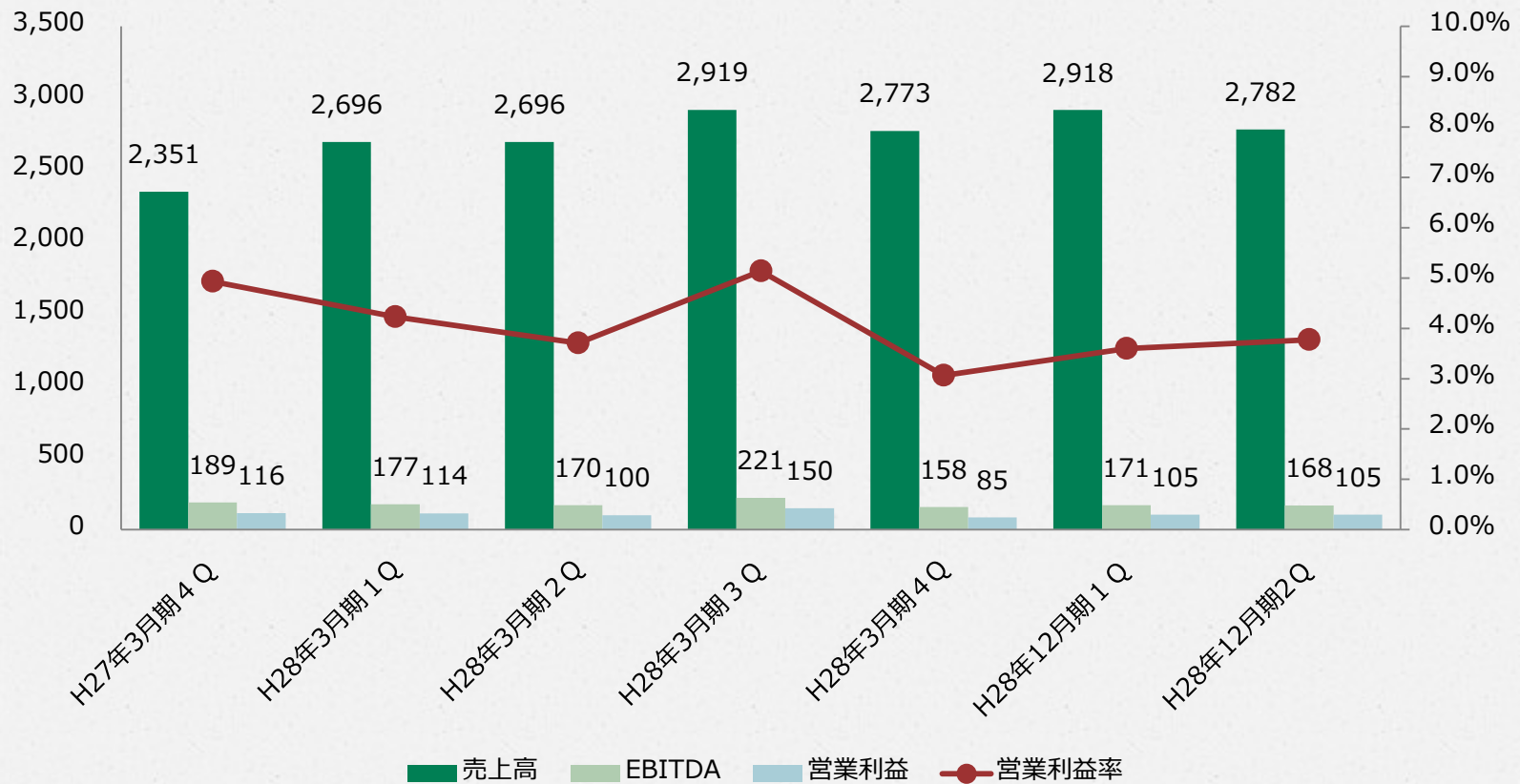
(百万円)

	平成28年12月期 2Q	
		売上比
売上高	5,701	100.0%
EBITDA	340	6.0%
営業利益	210	3.7%
経常利益	218	3.8%
四半期純利益	193	3.4%

売上高・EBITDA・営業利益の推移

売上高は、前年同期比5.7%増加

(百万円)

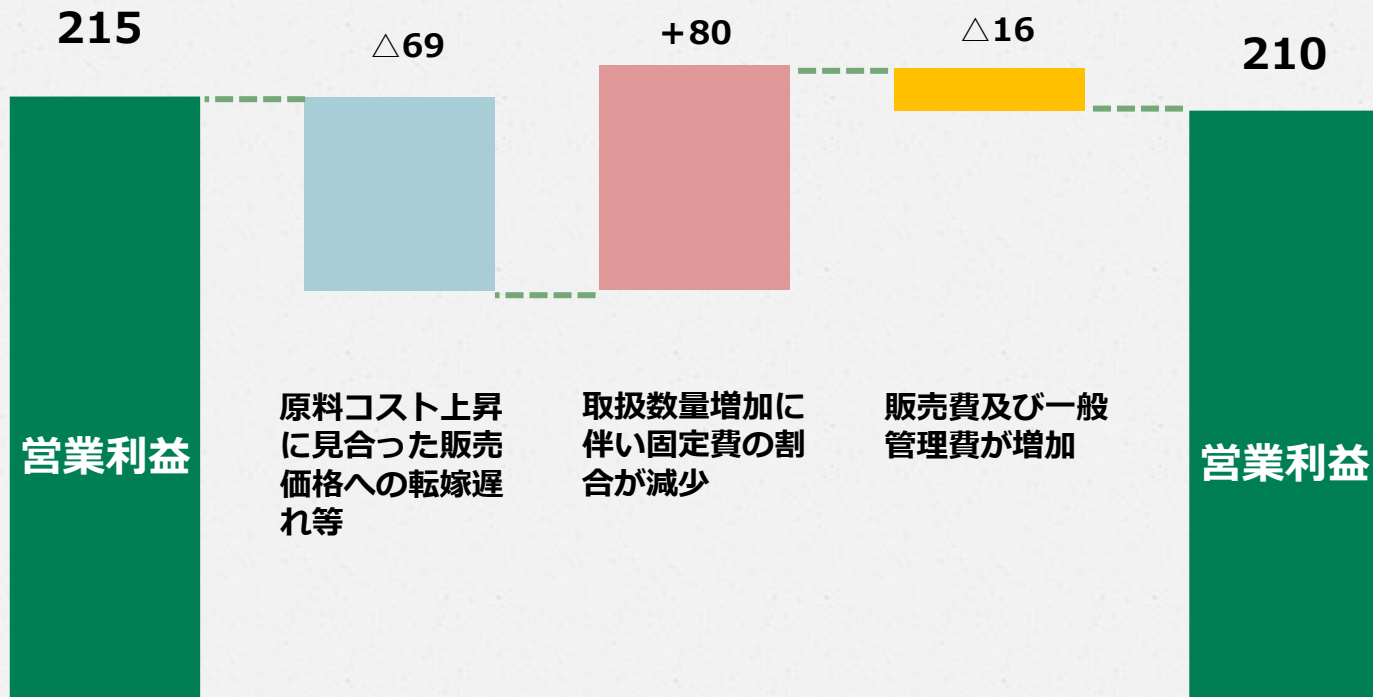


営業利益の増減分析

○ 前年同期比2.3%減少



(百万円)



H28年3月期 2 Q

平成28年12月期 2 Q

財政状況

- 自己資本比率は75.5%となり、
前事業年度末比2.0ポイント上昇

(百万円)

		平成28年3月期	平成28年12月期 2Q	増減額	増減率
資産の部	流動資産	6,312	6,159	△153	△2.4%
	固定資産	4,510	4,466	△44	△1.0%
資産合計		10,823	10,625	△197	△1.8%
負債の部	流動負債	2,826	2,563	△263	△9.3%
	固定負債	44	39	△5	△12.0%
	負債合計	2,871	2,602	△268	△9.3%
純資産の部	株主資本	7,889	7,972	82	1.1%
	評価・換算差額等 合計	62	50	△12	△19.3%
	純資産合計	7,952	8,023	70	0.9%
負債純資産合計		10,823	10,625	△197	△1.8%

ROEの推移

(自己資本当期利益率)



※H28年3月期4Qは、連結子会社であった上海緑一企業有限公司の売却に伴い関係会社出資金売却益748百万円を計上したことによります。

キャッシュ・フロー

(百万円)

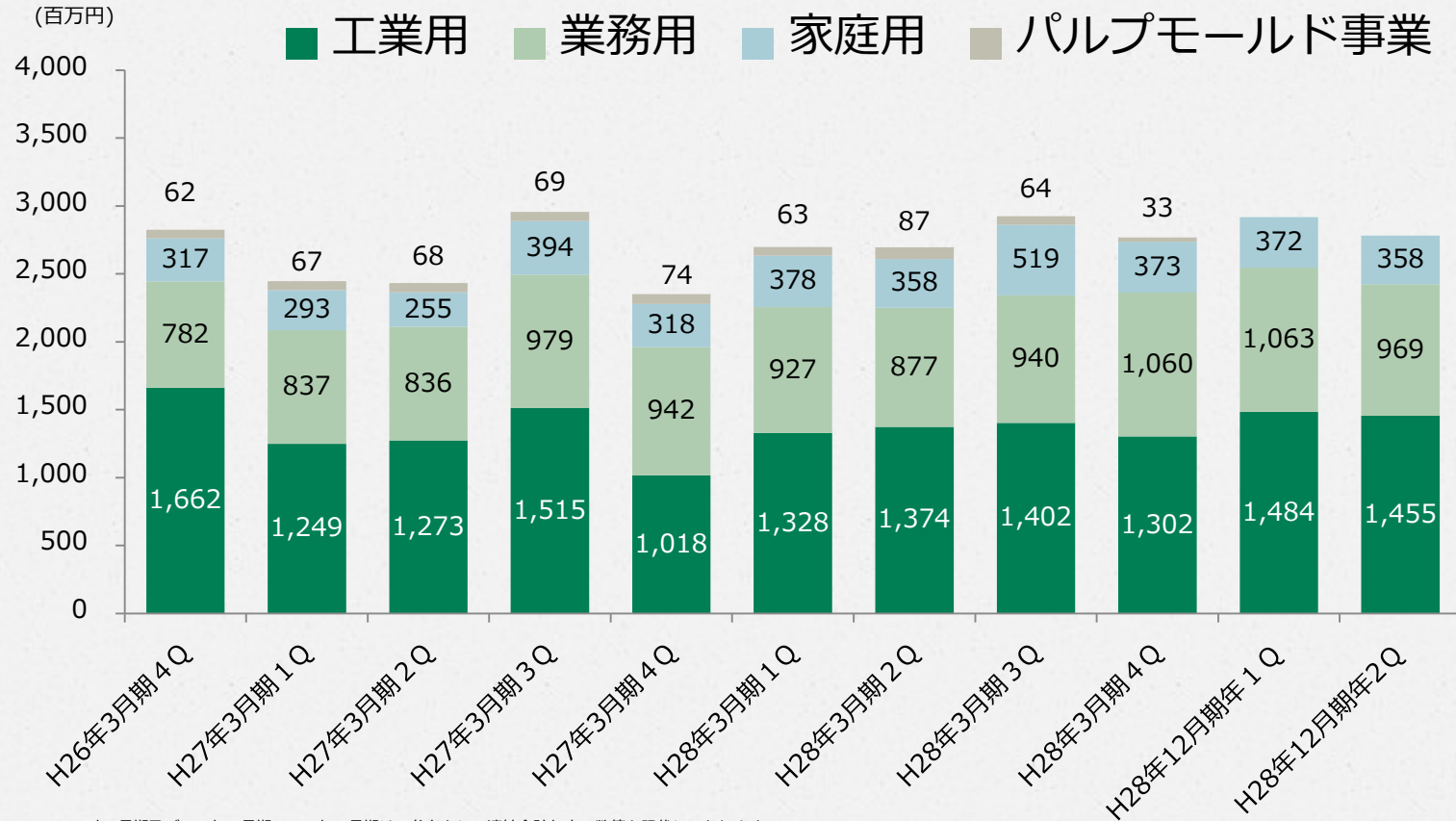
	平成28年3月期 2Q 累計	平成28年12月期 2Q 累計
営業活動による キャッシュ・フロー	419	304
投資活動による キャッシュ・フロー	△39	△102
財務活動による キャッシュ・フロー	△111	△110
現金及び現金同等物の 増減額	271	91
現金及び現金同等物の 期末残高	2,755	3,455

※平成28年3月期は、参考として連結キャッシュ・フローの数値を記載しております。

セグメント詳細の状況



セグメント別売上高



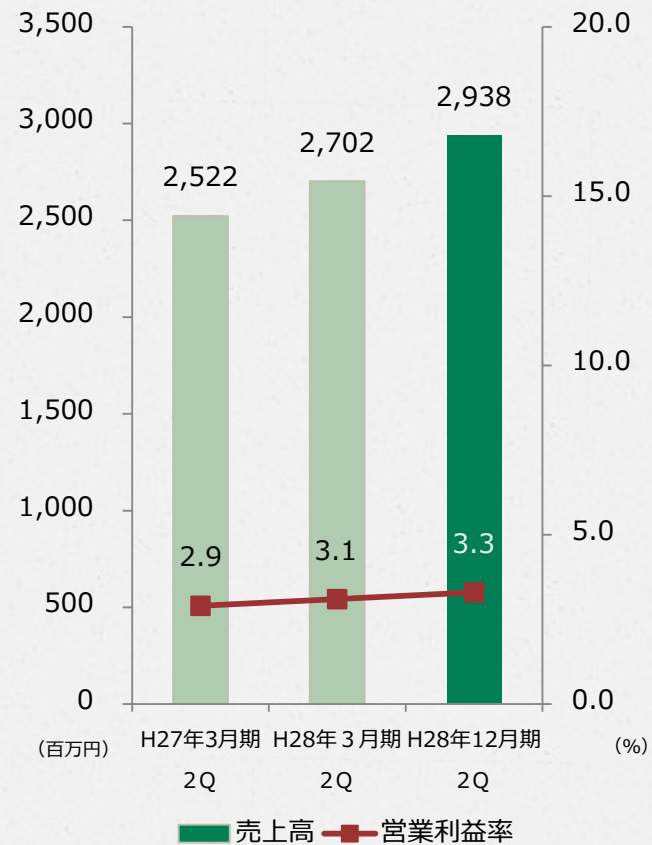
※ 1. H26年3月期及びH27年3月期、H28年3月期は、参考として連結会計年度の数値を記載しております。
 ※ 2. H28年12月期よりコーヒー関連事業の単一セグメントとなっております。

工業用コーヒー



▶ コーヒー取扱数量の増加による、シェアの拡大に注力。主要取扱先における取扱数量が好調に推移した結果、取扱数量は、前年を上回る。

売上高と営業利益率



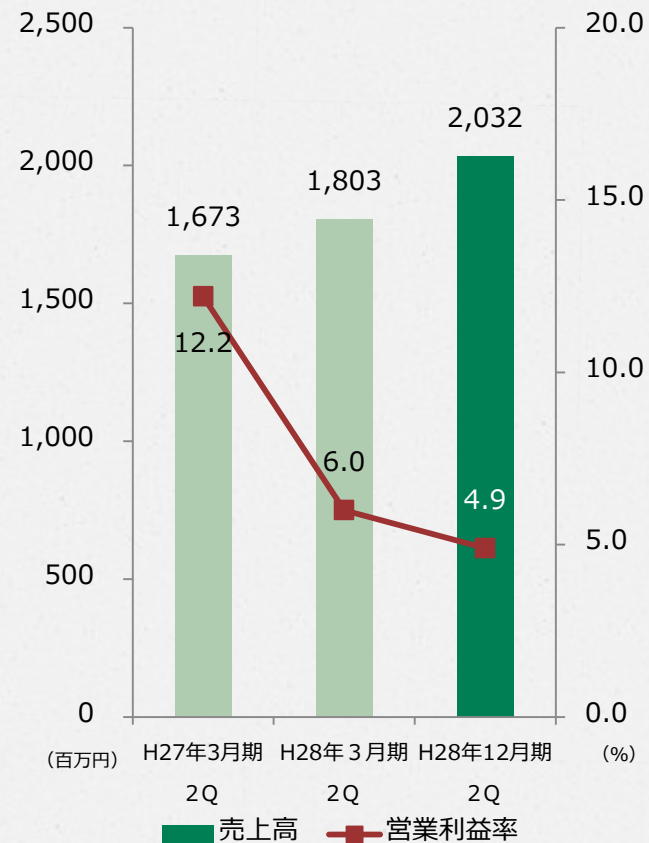
※H27年3月期及びH28年3月期は、参考として連結会計年度の数値を記載しております。

業務用コーヒー



▶ OEM製品、NB・PB製品の販売に注力し、取扱数量増加に向けて、新規取引先の開拓と既存取引先に対する新製品提案を推進。主要取引先カフェチェーンなどにおける取扱数量が好調に推移した結果、取扱数量は前年を大きく上回る。

売上高と営業利益率



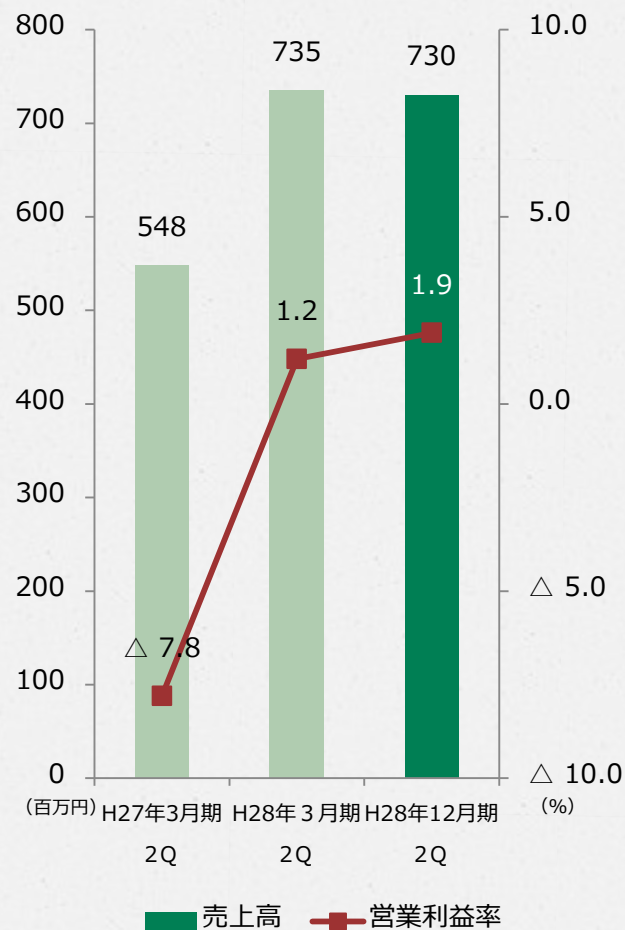
※H27年3月期及びH28年3月期は、参考として連結会計年度の数値を記載しております。

家庭用コーヒー



▶ NB・PB製品販売を中心に主要取引先における取扱数量が堅調に推移した結果、取扱数量はほぼ前年通りとなる。

売上高と営業利益率



※H27年3月期及びH28年3月期は、参考として連結会計年度の数値を記載しております。

平成28年12月期
事業環境・取組み



平成28年12月期 第2四半期業績予想と実績差異

(単位: 百万円)

	前回発表予想 (平成28年5月19日公表)		2Q 実績		増減額	増減率
		売上比		売上比		
売上高	5,867	100.0%	5,701	100.0%	△166	△2.8%
営業利益	330	5.6%	210	3.7%	△120	△36.4%
経常利益	335	5.7%	218	3.8%	△117	△34.9%
当期純利益	280	4.8%	193	3.4%	△87	△31.1%

※平成28年12月期通期業績数値は決算期変更により、9ヶ月の変則決算となっております。

平成28年12月期 通期業績予想の修正

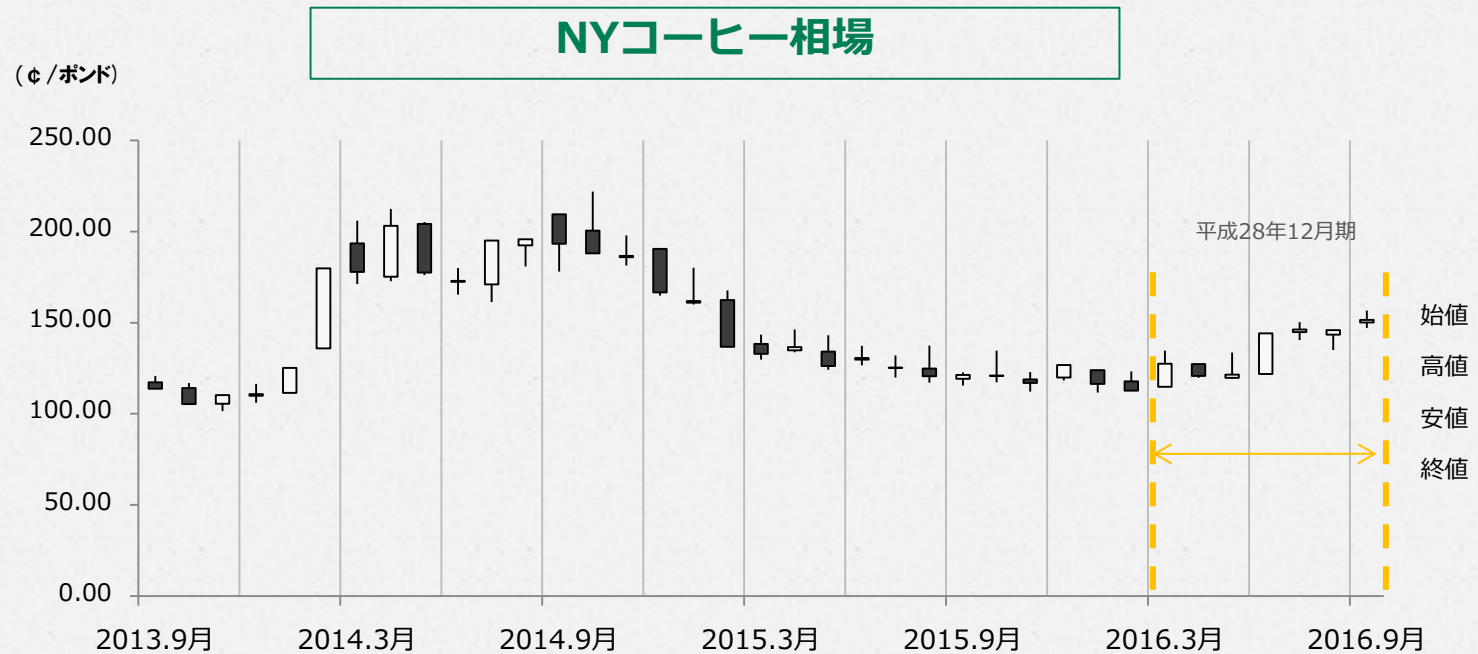
(単位:百万円)

	前回発表予想		今回修正予想		増減額	増減率	(ご参考) 平成28年 3月期
		売上比		売上比			
売上高	8,557	100.0%	8,610	100.0%	53	0.6%	11,086
営業利益	403	4.7%	288	3.4%	△115	△28.5%	452
経常利益	412	4.8%	298	3.5%	△114	△27.7%	468
当期純利益	338	4.0%	248	2.9%	△90	△26.6%	1,082

※平成28年12月期通期業績数値は決算期変更により、9ヶ月の変則決算となっております。

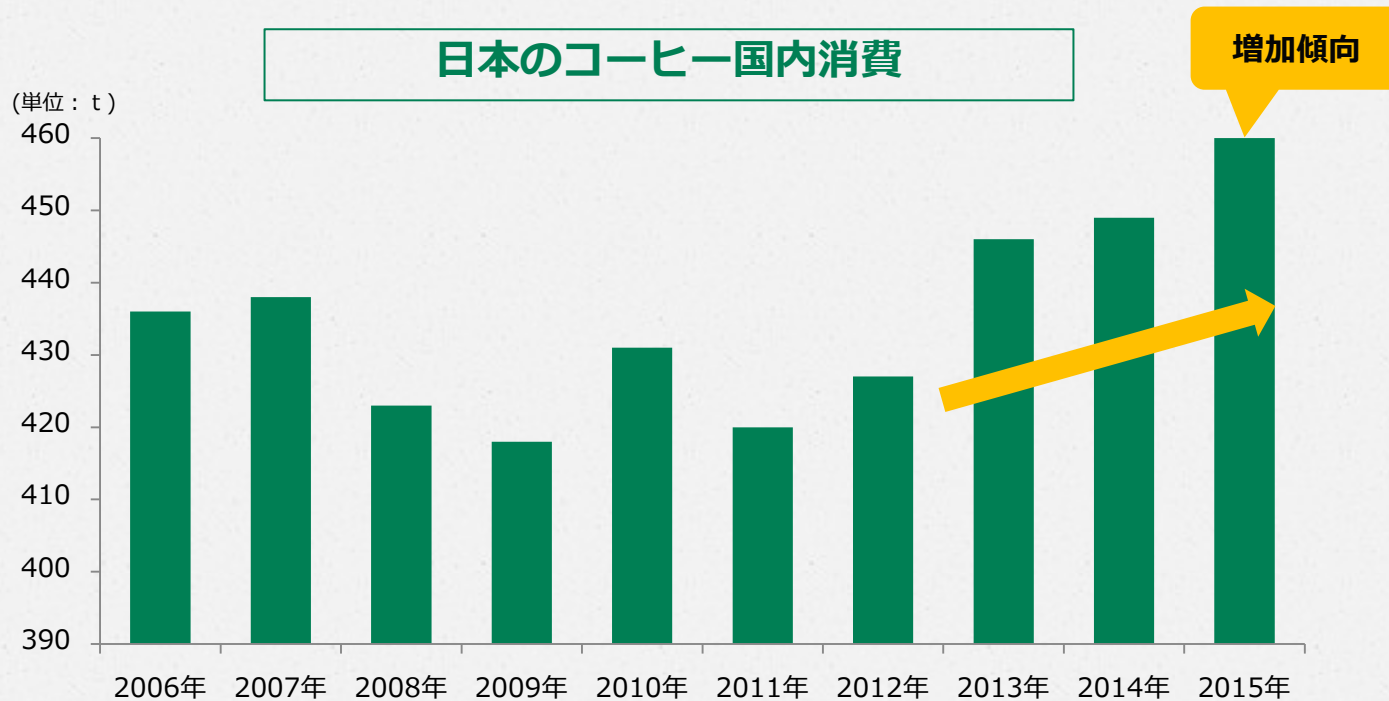
コーヒー生豆相場

- ・低い水準で推移しているが、為替変動により先行きは不透明な状況



コーヒー業界

- ・ コンビニエンスストアのカウンターコーヒーによりブームに火が付く
- ・ サードウェーブや一杯抽出コーヒーシステムによりニーズは多様化

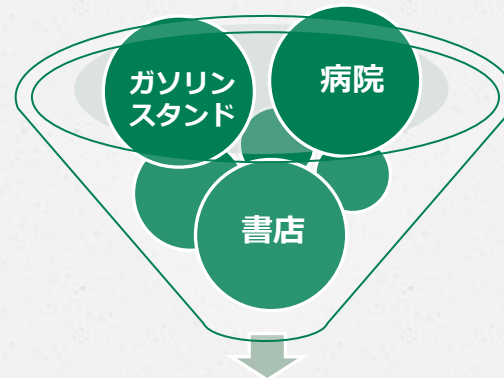


※出展：全日本コーヒー協会HP

コーヒー業界を取り巻く環境

- ・ コンビニエンスストアのカウンターコーヒーにより、コーヒーのマグネット効果が顕在化

コーヒーのマグネット効果



あらゆる業種・業態で
コーヒーが集客力を高める戦略製品であると注目

3つの競争戦略

戦略1

『No.1 製造受託企業』になる

▶ どのような顧客からも選ばれる『No.1 製造受託企業』になることを目指します。

「多品種少量生産」と「大量生産」の両面の需要に対応可能な設備を保持し、これまでに培った経験と知見により品質のさらなる向上と、収益の確保を目指してまいります。

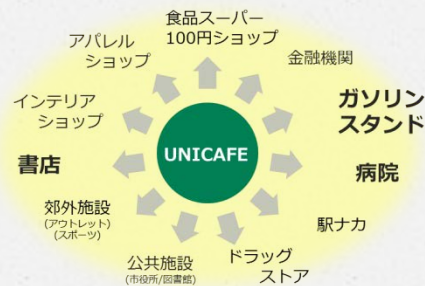


戦略2

『Fun to Drink』を提供する

▶ 様々な分野へ、コーヒーの新たな価値『Fun to Drink』を提案してまいります。

コーヒーが持つ利用可能性を活かして、様々な業種・業態へコーヒーの新たな価値『Fun to Drink』を提案してまいります。



戦略3

缶コーヒーの反転攻勢を仕掛ける

▶ 缶コーヒーの「反転攻勢」を仕掛けます。

缶コーヒーを製造する飲料メーカー各社は、一様に、商品開発期間の短縮化、味の均一化・安定化といった課題を抱えております。当社は、これらの課題を解消する仕組みを作り、飲料メーカー各社に積極的に提案することで、缶コーヒーの反転攻勢を仕掛けてまいります。



Disclaimer:本資料に関するご注意

免責事項

本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社の将来の業績と異なる可能性があります。

なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

インサイダー取引に関するご注意

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家（第一次情報受領者）は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています（金融商品取引法166条）。

同法施行令第30条等の定めにより、二つ以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または金融証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法（TDnetの適時開示情報閲覧サービスおよびEDINET公開WEBサイト）により掲載された時点をもって「公表」されたものとみなされます。